

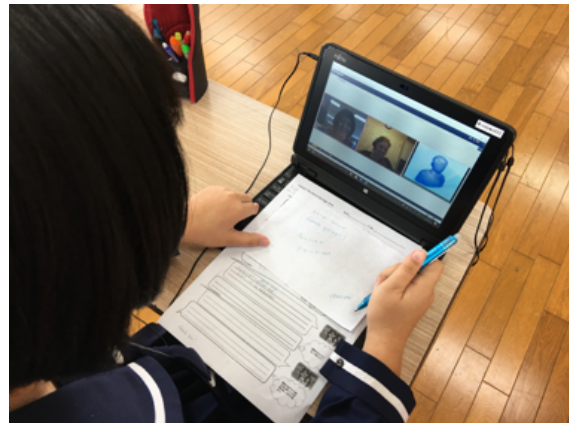
## 「生きて働く知識や技能であるために」(D-PRESS Vol.5 巻頭言)の続き

中川一史 (D-project 会長/放送大学教授)

次期学習指導要領が公表された。小学校学習指導要領(案)第1章総則によると、第1小学校教育の基本と教育課程の役割3で、資質・能力の柱として、

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること
- (3) 学びに向かう力、人間性を涵養すること

の3つをあげている。また、第2教育課程の編成2教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成として、「言語能力」「情報活用能力(情報モラルを含む)」「問題発見・解決能力」等の学習の基盤となる資質・能力を育成することができるよう各教科等の特質を生かしつつ、教科横断的な視点から教育課程の編成を図る、としている。その上で、第3教育課程の実施と学習評価1主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(3)によると、「(略)情報活用能力の育成を図るため、各学校においてコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な整備を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。」としている。



さて、中教審で何度も触れられていた「生きて働く」知識や技能であるために、D-PRESS Vol.5 巻頭言では、

- 1: 今までの知識をフル活用すること
- 2: 今までの知識を自覚的に修正すること
- 3: 児童生徒がツールの活用場面や方法を判断すること

をあげた。これに加え、以下の2つにも留意したい。

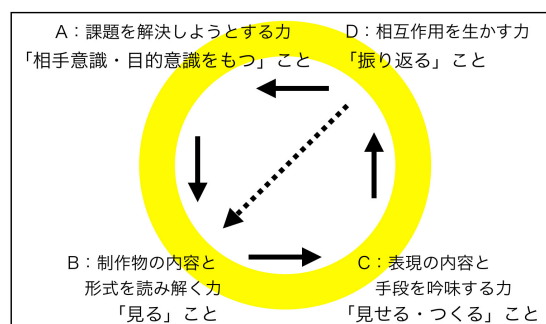
テレビ会議システムで会話する生徒と  
グループの仲間(グリーン真希子教諭実践)

#### 4：知識を活用するホンモノ・本気な場があること

沖縄県宮古島市立下地中学校2年外国語(グリーン真希子教諭)の実践を紹介しよう。各グループで毎週、外国語の時間に関わってくださるネイティブの方が決まっており、その方と一対一で会話の機会がある。参観時は、「宮古島の観光地を講師の先生に紹介しよう」というテーマだったが、5、6回目ですでにクラス全員が軽やかに一対一でやりとりできるようになっていた。ICT活用としては、「タブレット端末で映像を撮って、見せただけ」であり、「テレビ会議システムを使っただけ」である。しかし、対応する本人は言葉とアクションでスムーズにやり取りできるよう苦心したわけであるし、さらにその様子をバックヤードのグループの仲間がいつでもアドバイスができるように一言も漏らさないように留意しながらイヤホンをつけていたのである。生の相手が誠意を持って対応してくれている、さらに、すぐに反応しないと失礼であるというホンモノ・本気な場があったからこそ、この緊張感が生まれたのである。

#### 5：メディア表現を核にすること

先に述べたように、次期学習指導要領資質・能力の柱として、「(2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること」があがっている。例えば、国語科においても、映像メディアを活用して「示しながら話す」活動や「組み合わせて書く」活動が、たくさん教科書にも盛り込まれるようになってきた。メディア表現プロセスには、どのよう



図：メディア表現プロセス

な学習内容にも当てはまるとは限らないが、「相手意識・目的意識を持つこと」「本物やサンプルをしっかり見ること」「それらを踏まえ、見せること、つくること」「振り返ること」が考えられる。D-projectでは、メディア表現プロセスとして、図のように示している。一度、プロセスをふんで振り返ることにより、次に「見る」時には、見方そのものが変わってくる(図の点線)。生きて働く知識や技能であるために、このプロセスについても留意したい。

今回は、「主体的・対話的で深い学びを実現する授業デザイン」をテーマとし、春の公開研究会を開催する。前田康裕氏&佐藤幸江氏の副会長の実践の肝対談、プログラミング教育、英語教育など、8つの実践発表セッション。到達目標についての解説、思考ツール活用、プレゼンの達人など、4つのワークショップ。そしてスペシャルゲストとして、関西大学の久保田賢一先生、NHK放送文化研究所の宇治橋祐之さんが登壇される。たくさんのお土産をお持ち帰りいただければ幸いだ。

## ●D-project 関連の書籍

「つなぐ・かかわる授業づくり：タブレット端末を活かす実践52事例」

D-project編集委員会（2014）学研教育出版

「タブレット端末で実現する協働的な学び」

中川一史、寺嶋浩介、佐藤幸江編著（2014）フォーラム・A

「ICTで伝えるチカラ」 中川一史監修（2013）フォーラム・A

「電子黒板が創る学びの未来新-学習指導要領

習得・活用・探究型学習に役立つ事例50」

中川一史、中橋 雄編著（2009）株式会社ぎょうせい

「小学生が作ったホンモノパンフ」企業のパンフレット作りから生まれた子どもの学び」

中川一史、北川久一郎、山田康子、山本直樹（2005）高陵社書店

～会長、副会長の書籍～

「メディア・リテラシー教育」ソーシャルメディア時代の実践と学び」

中橋 雄編（2017）北樹出版

「フィンランドの教育～教育システム・教師・学校・授業・メディア教育から読み解く」

北川達夫、中川一史、中橋雄編著（2016）フォーラム・A

「タブレット端末を活用した21世紀型コミュニケーション力の育成」

中川 一史、山本 朋弘、佐和伸明、村井万寿夫編著（2015）フォーラム・A

「小学校国語 情報・メディアに着目した授業をつくる」

中川一史監修、国語と情報教育研究プロジェクト編著（2015）光村図書出版

「情報化社会と教育」 苑 復傑、中川一史編著（2014）放送大学教育振興会

「メディア・リテラシー論 ソーシャルメディア時代のメディア教育」

中橋 雄著（2014）北樹出版

「メディアプロデュースの世界」 中橋 雄、松本恭幸編（2013）北樹出版

「ICT教育 100の実践・事例集」 中川一史監修（2011）フォーラム・A

「まんがで知る教師の学び～これからの学校教育を担うために～」

前田康裕、さくら社、2016

「まんがで知る教師の学び2～アクティブ・ラーニングとは何か～」

前田康裕、さくら社、2017